

日本語とモンゴル語における使役文の解釈

—モンゴル語における使役接辞の異なりを手がかりしとして—

指導教員：船橋瑞貴

作成者：ムンフジャルガル ヤラルト

学籍番号：14187003

2015/09/11

日本語とモンゴル語における使役文の解釈

—モンゴル語における使役接辞の異なりを手がかりとして—

ムンフジャルガル ヤラルト

目次

1. はじめに

2. 日本語とモンゴル語の使役文

2. 1. 日本語の使役文

2. 2. モンゴル語の使役文

2. 2. 1. モンゴル語の使役接辞が重なる場合

3. 研究方法

3. 1. 調査の内容

3. 2. 調査の結果

4. おわりに

1. はじめに

日本語学習者にとって、母語ではない言語を学ぶ際に様々な問題がある。言語的な相違点や文化的な相違点などが原因となって問題が生じると思われるが、本論文では、モンゴル語の使役接辞に日本語の接辞とは違う働きがあるのではないかと感じた点を出発点として、先行研究、アンケート調査をもとに、モンゴル語の使役文の解釈について考察したい。

本論文のきっかけとなった使役文は以下のような文である。

- (1) お母さんが子供に絵を描かせた。(作例) = (描く) 動詞 + (-ase-ru/- (s) ase-ru) 使役
+ 過去形
- (2) Ээж хүүхдээрээ зураг зуруулсан = (zurah) 動詞 + (uul) 使役 + 過去形
- (3) Ээж хүүхдээрээ зураг зуруулуулсан = (zurah) 動詞 + (uul) 使役 + (uul) 使役 +
過去形

日本語の場合、使役接辞 (1) の場合は「-ase-ru」を一つ使い、その解釈としては、例えば、子供が「絵を描きたい」と思っていて、お母さんが自分の子供に絵を描くことを許しているという解釈、あるいは、子供が大きな声を出してうるさいので静かさせるために、お母さんが子供の気持ちに関わらず、絵を描かせているということなども考えられるだろう。一方、モンゴル語の使役文では、接辞を一つ使う (2) と、二つ使う (3) 場合があり、使役接辞を二つ使った場合は、子供に絵を描くことを許しているという許可の方向に感じられる。使役接辞を一つ使った場合は、子供の絵を描きたいという意志に関係なく、お母さんが自分のために、子供に絵を描かせたという解釈が強く感じられた。

以上のような日本語とモンゴル語の使役文における違いを出発点とし、モンゴル語の使役接辞の異なりによる解釈の違いについて検討することにした。

2. 日本語とモンゴル語の使役文

2. 1. 日本語の使役文

2. 1. ではまず、寺村 (1982)、早津 (2004)、日本語記述文法研究会 (編) (2009, pp.257-262) を参考に、日本語の使役文について見る。使役とは、「対応する能動文には含まれていない

人や物を主語として、能動文の表す事態の成立に影響を与える主体（使役者）として表現するもの」（日本語記述文法研究会（編）（2009, p.257）である。

(4) 子供がテレビを消した。（能動文）

(5) 父親が子供にテレビを消させた。（使役文）

使役文の述語は、動詞の語幹に「-(s)ase-ru」という接辞を付加して作られる。使役文は、使役者（使役の主体）の働きかけと、被使役者（動作の主体・能動主体）の動きからなる、複合的な事態を表現する。使役文を形式の面から、自動詞から作られる使役文と他動詞から作られる使役文に分けて見ていきたい。

まず、自動詞から作られる使役文である。対応する能動文の動詞が自動詞の場合、使役文は2種類の文型をとる。自動詞から作られる使役文は、使役者が「が」、被使役者が「を」で表されることが多い。

(6) 両親が、子供を寝させる。

(7) 両親が、息子に働かせて、自分たちは遊んでいる。

なお、被使役者に「を」「に」の両方が用いられる場合、「を」は被使役者の意志に関わりなく動作を働きかける場合、「に」は被使役者の意思を尊重して動作を働きかける場合に用いられることが多い。

次に、他動詞から作られる使役文である。対応する能動文の動詞が他動詞の場合、(8)のように使役者に「が」、被使役者に「に」を用いる。他動詞から作られる使役文では、ヲ格名詞が文の中で重なってしまうので、(9)のように被使役者を「を」で表すことは出来ない。

(8) 田中さんが、弟に本を読ませる。

(9) 田中さんが、弟を本を読ませる。

つづいて、使役文を解釈の面から見ていきたい。使役文は、使役者（使役の主体）が、被使役者（動きの主体・能動主体）による動きの実行・成立に関わっているものとして事態をとらえ、表現するものである。使役者の事態の成立への関わり方の違いから、使役文には、使役者が間接的に事態の

成立に関わるもの、直接的に事態の成立に関わるもの、事態の成立に積極的に関わらないものの三つのタイプがある。まず、使役者が間接的に事態の成立に関わる使役文であるが、これには能動的使役文と受容的使役文がある。

(10) 警察官が男を止まらせた。(能動的使役文)

(11) 申請者を全員入国させた。(受容的使役文)

次に、使役者が直接的に事態の成立に関わる使役文には、原因的使役文と他動的使役文がある。

(12) 鈴木の突然の来訪がみんなを驚かせた。(原因的使役文)

(13) 私は車を走らせた。(他動的使役文)

最後に、使役者が事態の成立に積極的に関わらない使役文には、有責的使役文がある。

(14) 私は飼い犬を死なせた。(有責的使役文)

このように使役文とは、使役者の関与がなければ、被使役者の動きがないのが一般的である。ただし使役文には、使役者による関与のあり方が具体的には指定されておらず、使役者が事態にどのように関わっているのか、様々な解釈がある。たとえば、(15)の使役文に対する解釈は、使役者が被使役者に強く命令したことも表す(15a)し、被使役者に許可を与えたことを表す(15b)、被使役者に同行するといった行為を伴う場合もある(15c)という。

(15) 山本は子供を公園で遊ばせた。

(15a) 仕事の邪魔なので、山本は子供を公園で遊ばせた。

(15b) そとに出たがっていたので、山本は子供を公園で遊ばせた。

(15c) 久しぶりの休日なので、山本は子供と一緒に外へ出て、公園で遊ばせた。

また、被使役者に「を」「に」の両方が用いられる場合、「を」は被使役者の意志に関わりなく動作を働きかける場合、「に」は被使役者の意志を尊重して動作を働きかける場合に用いられることが多いと言われる点に関しては、内藤（1998）に考察がある。内藤（1998）はまず、使役文は、補文に現れる主語の意志に注目した場合、強制使役と許容使役の2種類の文が存在する。強制使役では、補文が主語の意志とは無関係に行為を強制されるのに対し、許容使役では、補文が主語の意志による自発的行為を表すと述べる。

(16) 太郎が子供を走らせた。（強制使役）

(17) 太郎が子供に走らせた。（許容使役）

各使役文は、使役者「太郎」が補文の「子供が走る」という出来事を引き起こすという共通の意味を持つ。しかし、(16)では、「太郎」が「子供」の意志とは無関係に「走る」ことを強制しているのに対し、(17)では、「太郎」が「子供」の意志に基づいて「走る」ことを許容している、というように二つの文が異なるという。ここで、補文の動詞を(16)と(17)の自動詞「走る」から、他動詞「食べる」に交換したところ、(18)が補文主語に対格「を」が付与された場合、この文は非文となり、強制使役と許可使役の両方が(19)の文のように補文主語に与格「に」が付与された文によって表される。

(18) 太郎が子供を餅を食べさせた。

(19) 太郎が子供に餅を食べさせた。

このことから、使役文における、強制使役、許容使役の意味上の区別は、補文主語の格の形態上の相違によるものではないことがわかると述べている。

以上より、日本語の使役文の意味は、形式として明示されるものではなく、文脈によって決まるものといえる。

2. 2. モンゴル語の使役文

¹ 「多い」という点、形式上の違いが意味の異なりを明示するという記述ではないと考えられるが、その点を内藤（1998）によって確認する。

Munkh-Amgalan.Yu (2014) と山越 (2012) を参考に、モンゴル語の使役文についてまとめる。モンゴル語の使役接辞には-AA4, -GA4, -UUL2, -LGA4 四つの接辞が用いられる。基本的には、日本語と同様に「A が (B を) ~する」という能動文を「X が A に (B を) ~させる」という使役文に変える働きがある。このとき当該動作の行為者 (A) は与位格もしくは道具格で現れる。四つの接辞のうち、-AA4, -GA4 が主に自動詞に接続詞、他動詞を派生する。自動詞の主語に相当する名詞句は目的語となる。他動詞に接続する例もわずかだがみられる。

(20) 私は 7 時に目が覚めます。

Би 7 цагт сэрдэг.

(21) 母は 7 時に私を起こします。

Ээж намайг 7 цагт сэрээдэг.

-AA4 -GA4 のどちらが接続するかは、語彙的に決まっている。(-д, -л, -с, -р) D, -L, -S, -R で終わる動詞語幹に原則として -GA4 が接続するが、-AA4 が接続することもある。

Сэр-覚める

Сэр+ээ-覚まさせる

Сонс -聞く

Сонс+го -聞かせる

-UUL2, -LGA4 は、自動詞と他動詞に関わらずよく使われ、使役と受身の両方を意味する、複雑の形式だ。-LGA4 が、二重母音と長母音で終わる動詞語幹に接続し、それ以外の動詞語幹に-UUL2 が接続するのが原則である。

Суу-座る

Суу+лга-座らせる

Яв-行く

Яв+уул-行かせる

動作を行う行為者が与位格をとるか、道具格をとるかという選択の基準については、多くの研究者が様々な見解を述べている。与位格を使った使役文は、X が行為者 A に行為を表現させようとする働

きかけが弱く、道具格のほうが働きかけが強いという傾向があるといえる。行為の影響が自分自身の所有物に及ぶケースがある。このとき、日本語では受身文で表現するが、モンゴル語では使役文となる。

(22) Би хонио чононд идү үлсэн.

(23) 私は自分の羊を狼に食べられた。

なお、山越 (2012) によると、こういう文では「その行為を許可した (羊を食べさせた) のか、「その行為をしてもらった (羊を食べてもらった) のか、「主語の意図に関わらず行われた (羊を食べられた) のか、その区別がつかない、文脈から判断する必要があるという。また、Munkh-Amgalan.Yu (2014) では、使役の二つの接辞を連続して使うことがよくある上、三つ、四つも連続して使うことが非常に少ないが、あると書いてあるが、その意味の違いについては何も書かれていない。

2. 2. 1. モンゴル語の使役接辞が重なる場合

使役接辞を連続して使う場合の意味の違いについては、梅谷(1999)の研究発表がある。梅谷(1999)は使役接辞の-UUL が他動詞に一つ付いた場合と、二つ連続して付いた場合との意味の差を調べるために、他動詞に-UUL が付いたもので、被使役者を表す名詞句は対格、造格、与位格のうち、造格のみを考察している。また、使役接辞-LGA を使役接辞-UUL と同じものとして扱っている。

調査方法については詳しく書かれていない²が、調査の結果から、次のような意味の差がインフォーマントに感じられるという。

(1) 一つ付く場合には、事態が実現される場に使役者がいる状況が、二つ付く場合には、事態が実現される場に使役者がいない状況が思い浮かぶ。

(2) 一つ付く場合には、使役者が被使役者に、事態の実現方法について指示を与える状況が、二つ付く場合には、指示を与えない状況が思い浮かぶ。

(3) -UUL が二つ付くほうが、一つ付く場合よりも、被使役者に対して敬意を払っている表現であるように感じられるという。

² 発表予稿集には、インフォーマントの人数、インフォーマントが感じる差をどのように収集したのかなどの調査方法についての記述がない。

上の(1)～(3)のことから、-UULが一つ付く場合には、事態の実現が使役者に依存していることを表し、二つ付く場合には、事態の実現が被使役者に依存していることを表すという結果を出している。

梅谷(1999)の研究から、使役接辞の-UULが他動詞に一つ付いた場合と、二つ連続して付いた場合では、何らかの解釈の異なりが生じるものと考えられる。しかし、梅谷(1999)は、一人(あるいは少数)をインフォーマントとし、文の印象を語ってもらうというインタビュー調査をしたものと思われる。また、使役接辞-LGAを使役接辞-UULと同じものとして扱っている。そこで本論文では、調査対象者の人数を増やして、使役接辞-LGAと-UULの違いを考えて、一つの場合と二つの場合という形式の違いが、使役文の解釈の決定に関わるかを調査することにした。

3. 調査

3. 1. 調査の目的

調査の目的は、モンゴル語の使役文で使役接辞一つ使った場合と二つ使った場合の形式上の異なり、また、用いられる使役接辞-LGAと-UULの異なりが、使役文の解釈に影響を与えるかを明らかにすることである。

3. 2. 調査の方法

まず、作例(日本語文で10文)と梅谷(1999)における例文(日本語文で2文)の計12文の日本語文を準備した。そして、その日本語文をモンゴル語に訳した文(各日本語文に対し、使役接辞一つのモンゴル語文と二つのモンゴル語文、計24文)を作成し調査文とした。調査文は、-LGA接辞と-UUL接辞の違いを調べるため、以下の例にあるように、使役接辞-LGAを用いた「-LGA/-LGA+UUL」の12文と、使役接辞-UULを用いた「-UUL/-UUL+UUL」の12文である。

[日本語文とそのモンゴル語訳文の例]

(24) 高校生の時、両親が私にアルバイトをさせた。(日本語文)

-LGA (接辞を一つ使ったモンゴル語文)

(25) Ахлах сургуульд байхад эцэг эх надаар цагийн ажил хий + лгэ (使役接辞) + сэн.

-LGA+UUL (接辞を二つ使ったモンゴル語文)

(26) Ахлах сургуульд байхад эцэг эх надаар цагийн ажил хий + лг (使役接辞) + ү ү л (使役接辞) + сан.

(27) お母さんが子供に本を読ませた。(日本語文)

-UUL (接辞を一つ使った文)

(28) Ээж хү ү хдээрээ ном унш + уул (使役接辞) + сан.

-UUL+UUL (接辞を二つ使った文)

(29) Ээж хү ү хдээрээ ном унш + уул (使役接辞) + уул (使役接辞) + сан.

日本語の使役文では強制、許可などの解釈は複数あり文脈によって決まるが、モンゴル語の使役文に関しては、筆者は、モンゴル語の使役接辞を一つ使う場合（特に、-LGA 接辞を一つ使った場合）、使役者が被使役者に動作をさせるため強く命令していると感じられ、使役接辞を二つ使う場合（-LGA+UUL, -UUL+UUL の場合）、被使役者が使役者に自分のために動作をしてもらうことを頼んで、それを使役者が許しているという解釈が強く感じられる。

接辞を一つ使った場合と二つ使った場合、筆者が感じたような解釈の差があるのか、また、どれくらいの差があるのかを調べるために、モンゴル語の 24 文について、それぞれの文から「強制と許可の解釈のどちらを強く感じるか」を、直感的に判断してもらった調査とした。回答の方法は、以下の例のように、強制的な解釈、許可的な解釈、意味がわからない、他の意味という四つの選択肢を作り、最も強く感じられるものに「◎」、可能なものに「○」、不可能なものに「×」を記入してもらった。「他の意味」を選択した場合は、その意味を書いてもらうという方法である。調査協力者は、日本語が全くわからない、モンゴル在住のモンゴル人 30 名、年齢は 15 歳～60 歳である。

[調査文の例 (日本語)]

1. 高校生の時、両親が私にアルバイトをさせた。
 - a. 両親が、遊んでばかりいる私に、「バイトでもしなさい」という意味
 - b. 両親が、バイトでもやりたいと思っている私に、「どうぞ、やってもいいよ」という意味
 - c. どんな意味か分からない
 - d. 他の意味 ()

3. 3. 調査の結果

アンケート調査を分析する時、大きく二つのグループに分けた。表1は-LGA, -LGA+UUL 接辞、表2は-UUL, -UUL+UUL 接辞のモンゴル文における結果である。表1と2にある「1、2、3、4…」はアンケート調査紙にある調査文の番号である。

表1-LGA, -LGA+UUL 接辞の調査結果

1		2		5		6		9		10		13		14		17		18		21		22													
強制	強>許	25	強制	強>許	14	強制	強>許	21	強制	強>許	11	強制	強>許	21	強制	強>許	12	強制	強>許	17	強制	強>許	14	強制	強>許	16	強制	強>許	12	強制	強>許	23	強制	強>許	12
許可	強<許	5	許可	強<許	13	許可	強<許	3	許可	強<許	15	許可	強<許	2	許可	強<許	14	許可	強<許	6	許可	強<許	12	許可	強<許	7	許可	強<許	13	許可	強<許	4	許可	強<許	16
3	強のみ	3	強のみ	3	強のみ	6	強のみ	2	強のみ	7	強のみ	2	強のみ	3	強のみ	7	強のみ	3	強のみ	7	強のみ	3	強のみ	4	強のみ	3	強のみ	3	強のみ	1	強のみ	3	強のみ	3	
0	許のみ	0	許のみ	3	許のみ	0	許のみ	2	許のみ	0	許のみ	2	許のみ	0	許のみ	0	許のみ	4	許のみ	0	許のみ	0	許のみ	4	許のみ	0	許のみ	4	許のみ	0	許のみ	0	許のみ	2	
	分からない		分からない		分からない		分からない		分からない		分からない		分からない		分からない		分からない		分からない		分からない		分からない		分からない		分からない		分からない		分からない		分からない		
	回答なし		回答なし		回答なし		回答なし		回答なし		回答なし		回答なし		回答なし		回答なし		回答なし		回答なし		回答なし		回答なし		回答なし		回答なし		回答なし		回答なし		

奇数番号は接辞を一つ使ったモンゴル文、次の偶数番号は、同じ日本語文を接辞を二つ使って訳したモンゴル文である。番号1と2を例に表を説明すると、まず、1の接辞を一つ使った場合は、30名全てが「強制の解釈も許可の解釈も可能である」と答えたが、その中でも、「強制の解釈を強く感じる」と答えたのが25名、「許可の解釈を強く感じる」と答えたのが5名であったことを示している。一方、2の接辞を二つ使った場合は、「強制の解釈も許可の解釈も可能である」と答えたのが27名、「強制の解釈はなく許可の解釈のみが可能である」と答えたのが3名である。「強制の解釈も許可の解釈も可能である」と答えたのが27名のうち、「強制の解釈を強く感じる」と答えたのが14名、「許可の解釈が強く感じられる」と答えたのが13名であることを示している。そして、「強制の解釈を強く感じる」という回答と「強制のみの解釈が可能である」という回答を合わせて、強制の解釈をしたものとして、「許可の解釈を強く感じる」という回答と「許可のみの解釈が可能である」という回答を合わせて、許可の解釈をしたものとしてまとめた。表では、より多く示された解釈に色づけをした。

表1の色分けをみると明らかなように、接辞が一つか二つかにより解釈に異なりがある。接辞が一つの場合は強制の解釈が強く（強制123/許可27）、接辞が二つの場合は許可の解釈に傾く（強制75/許可83）ことがわかる。6、10、18においては、「強制のみの解釈が可能である」という回答も見られるが、「許可のみの解釈が可能である」という回答の方が同等か上回っていることから、許可の解釈に傾いていると考える。

次に、-UUL, -UUL+UUL 接辞の場合である、表2を見ていきたい。

表 2—UUL, -UUL+UUL 接辞の調査結果

	3	4	7	8	11	12	15	16	19	20	23	24
強制/許可	18	7	21	7	21	6	19	6	15	10	20	11
強<許	5	13	4	20	2	20	5	14	7	6	6	15
強=許			1									
強のみ	5	2	4		7	3	6	2	8	3	4	3
許のみ	2	4	3	3	0	4	0	6	3	7	0	4
分からない		6						4		7		
回答なし												

表 2 を全体的にみると、表 1 の結果と同様に、接辞が一つか二つにより解釈に異なりがあり、接辞が一つの場合は強制の解釈が強く（強制 114／許可 29）、接辞が二つの場合は許可の解釈に傾く（強制 47／許可 88）ことがわかる。

なお、-LGA 接辞と-UUL 接辞で、解釈に違いがあるのではないかと予想し、調査文を選び、接辞を分けて分析を行ったが、今回の調査でははっきりとした違いは見られなかった³。

また、表 2 の結果において注意すべきは、4、16、20 において「意味が分からない」という回答がある点である。全て接辞が二つの場合であり、以下の調査文である（以下では、日本語文で示す）。

（調査文 4）お母さんが子供に本を読ませた。

（調査文 16）私はバトに馬頭琴を弾かせた。

（調査文 20）私はドルジに日本で本を買わせた。

これは動詞の語彙的な意味が解釈を難しくしているのか、その他の理由があるのか、本調査では明らかにできない。今後の課題としたい。

³ 表 1 と比べると、接辞が二つの場合、表 2 の方が許可の解釈にやや強く傾いていると思われる。接辞-LGA か-UUL かによる違いは、今後の課題にしたい。

4. まとめ

日本語の使役文における、たとえば、強制、許可といった解釈は、形式上の手がかりはなく、その文脈において決定されるものである。これに対しモンゴル語の使役文は、接辞が一つ付くか二つ付くかという形式上の異なりが、解釈の決定に関係することがわかった。モンゴル語では、使役接辞という形式の異なりが解釈の決定に関係するが、日本語の使役文にはそのような形式上の手がかりがない。この点が、モンゴル人日本語学習者が日本語の使役文を解釈する際に困難を感じる、その要因の一つになるのではないだろうか。

本論文では、使役接辞が一つか二つかによって解釈が異なるかを見るため、調査対象者を増やし、調査紙による選択式の調査を行った。結果からは、解釈が異なることはわかったが、具体的にどのように異なるのかについては見ることはできない。調査結果に「分からない」という回答があったことから、今後は、梅谷（1999）の行ったようなインタビュー調査を、調査対象者を増やして行い、具体的な異なりや「分からない」と回答した理由を調べたい。

【参考文献】

梅谷博之（1999）「現代モンゴル語の使役を表す接辞が連続して現れる場合」『日本語学会 第118回大会予稿集』， pp.177-182

寺村秀夫（1982）『日本語のシンタクスと意味』第I巻， くろしお出版

内藤永（1998）「強制使役と許容使役—照合理論による分析」『旭川医科大学紀要』19，
pp.67-79

日本語記述文法研究会（編）（2009）『現代日本語文法Ⅱ 第3部 格と構文 第4部 ヴォイス』くろしお出版

早津恵美子（2004）「使役表現」『朝倉日本語講座6 文法Ⅱ』， pp.67-79， 朝倉書店

山越康裕（2012）『詳しくわかるモンゴル語文法』梨本印刷

Munkh-Amgalan.Yu Kan Shin（2014）『Orchin tsagiin mongol helnii buteewer sudlal』
Soyombo

printing

【資料】

調査のモンゴル文

◎Энэ утга хамгийн хүчтэй
байхгүй

○Энэ утга ч байж болно

× Энэ утга

1. Ахлах сургуульд байхад, эцэг эх надаар цагийн ажил хийлгэсэн

а. Эцэг эх, наргиж зугаацан юу ч хийдэггүй надад 「цагийн ажил ч гэсэн хий」 гэж буй утга

б. Эцэг эх, ажил хиймээр байна гэж бодож байгаа надад 「тэг тэг, ажил хийж болно」 гэж буй утга

в. Ямар утгатайг нь мэдэхгүй байна

г. Өөр утга ()

2. Ахлах сургуульд байхад, эцэг эх надаар ажил хийлгүүлсэн

а. Эцэг эх, наргиж зугаацан юу ч хийдэггүй надад 「цагийн ажил ч гэсэн хий」 гэж буй утга

б. Эцэг эх, ажил хиймээр байна гэж бодож байгаа надад 「тэг тэг, ажил хийж болно」 гэж буй утга

в. Ямар утгатайг нь мэдэхгүй байна

г. Өөр утга ()

3. Ээж хүүхдээрээ ном уншуулсан

а. Ээж нь, номонд дургүй хүүхэддээ 「унш」 гэж буй утга

б. Ээж нь, ном уншмаар байгаа хүүхэддээ 「тэг тэг, уншиж болно」 гэж буй утга

в. Ямар утгатайг нь мэдэхгүй байна

г. Өөр утга ()

4. Ээж хүүхдээрээ ном уншуулуулсан

а. Ээж нь, номонд дургүй хүүхэддээ 「унш」 гэж буй утга

б. Ээж нь, ном уншмаар байгаа хүүхэддээ 「тэг тэг, уншиж болно」 гэж буй утга

в. Ямар утгатайг нь мэдэхгүй байна

г. Өөр утга ()

5. Багш сурагчаар ангийн хогийг түүлгэсэн

- а. Багш нь, ангийн хог түүхгүй байгаа сурагчид 「түү」 гэж буй утга
- б. Багш нь, ангийн хогийг цэвэрлэхгүй бол болохгүй гэж бодож буй сурагчид 「тэг тэг, түүж болно」 гэж буй утга
- в. Ямар утгатайг нь мэдэхгүй байна
- г. Өөр утга ()
6. Багш сурагчаар ангийн хогийг түүлгүүлсэн
- а. Багш нь, ангийн хог түүхгүй байгаа сурагчид 「түү」 гэж буй утга
- б. Багш нь, ангийн хогийг цэвэрлэхгүй бол болохгүй гэж бодож буй сурагчид 「тэг тэг, түүж болно」 гэж буй утга
- в. Ямар утгатайг нь мэдэхгүй байна
- г. Өөр утга ()
7. Аав ахаар машин бариулсан
- а. Аав, машин барих дургүй ахад 「машин барь」 гэж буй утга
- б. Аав, машин баримаар байгаа ахад 「тэг тэг, барьж болно」 гэж буй утга
- в. Ямар утгатайг нь мэдэхгүй байна
- г. Өөр утга ()
8. Аав ахаар машин бариулуулдаг
- а. Аав, машин барих дургүй ахад 「машин барь」 гэж буй утга
- б. Аав, машин баримаар байгаа ахад 「тэг тэг, барьж болно」 гэж буй утга
- в. Ямар утгатайг нь мэдэхгүй байна
- г. Өөр утга ()
9. Би ахаар ачаа зөөлгөсөн
- а. Би, ачаа зөөдөггүй ахад 「ачаа зөө」 гэж буй утга
- б. Би, ачаа зөөмөөр байгаа ахад 「тэг тэг, ачаа зөөж болно」 гэж буй утга
- в. Ямар утгатайг нь мэдэхгүй байна
- г. Өөр утга ()

10. Би ахаар ачаа зөөлгүүлсэн

- а. Би, ачаа зөөдөггүй ахад 「ачаа зөө」 гэж буй утга
- б. Би, ачаа зөөмөөр байгаа ахад 「тэг тэг, ачаа зөөж болно」 гэж буй утга
- в. Ямар утгатайг нь мэдэхгүй байна
- г. Өөр утга ()

11. Ээж надаар гэр цэвэрлүүлсэн

- а. Ээж, гэр цэвэрлэдэггүй надад 「цэвэрлэ」 гэж буй утга
- б. Ээж, гэрээ цэвэрлэмээр байгаа надад 「тэг тэг, цэвэрлэж болно」 гэж буй утга
- в. Ямар утгатайг нь мэдэхгүй байна
- г. Өөр утга ()

12. Ээж надаар гэр цэвэрлүүлүүлсэн

- а. Ээж, гэр цэвэрлэдэггүй надад 「цэвэрлэ」 гэж буй утга
- б. Ээж, гэрээ цэвэрлэмээр байгаа надад 「тэг тэг, цэвэрлэж болно」 гэж буй утга
- в. Ямар утгатайг нь мэдэхгүй байна
- г. Өөр утга ()

13. Эгч дүүгээр хувцас угаалгасан

- а. Эгч, угаалга хийдэггүй дүүд 「хувцас угаа」 гэж буй утга
- б. Эгч, угаалга хиймээр байгаа дүүд 「тэг тэг, хувцас угааж болно」 гэж буй утга
- в. Ямар утгатайг нь мэдэхгүй байна
- г. Өөр утга ()

14. Эгч дүүгээр хувцас угаалгуулсан

- а. Эгч, угаалга хийдэггүй дүүд 「хувцас угаа」 гэж буй утга
- б. Эгч, угаалга хиймээр байгаа дүүд 「тэг тэг, хувцас угааж болно」 гэж буй утга
- в. Ямар утгатайг нь мэдэхгүй байна
- г. Өөр утга ()

15. Би Батаар морин хуур тоглуулсан

а. Би, морин хуур тоглохгүй байгаа Батад 「тогло」 гэж буй утга

б. Би, морин хуур тогломоор байгаа Батад 「тэг тэг, тоглож болно」 гэж буй утга

в. Ямар утгатайг нь мэдэхгүй байна

г. Өөр утга ()

16. Би Батаар морин хуур тоглуулуулсан

а. Би, морин хуур тоглохгүй байгаа Батад 「тогло」 гэж буй утга

б. Би, морин хуур тогломоор байгаа Батад 「тэг тэг, тоглож болно」 гэж буй утга

в. Ямар утгатайг нь мэдэхгүй байна

г. Өөр утга ()

17. Ээж надаар хоол хийлгэсэн

а. Ээж, хоол хийдэггүй надад 「хоол хий」 гэж буй утга

б. Ээж, хоол хиймээр байгаа надад 「тэг тэг, хийж болно」 гэж буй утга

в. Ямар утгатайг нь мэдэхгүй байна

г. Өөр утга ()

18. Ээж надаар хоол хийлгүүлдэг

а. Ээж, хоол хийдэггүй надад 「хоол хий」 гэж буй утга

б. Ээж, хоол хиймээр байгаа надад 「тэг тэг, хийж болно」 гэж буй утга

в. Ямар утгатайг нь мэдэхгүй байна

г. Өөр утга ()

19. Би Доржоор Японд ном авахуулсан

а. Би, ном авахгүй байгаа Доржид 「ав」 гэж буй утга

б. Би, ном авъя гэж бодож байгаа Доржид 「тэг тэг, авч болно」 гэж буй утга

в. Ямар утгатайг нь мэдэхгүй байна

г. Өөр утга ()

20. Би доржоор Японд ном авахуулуулсан.

а. Би, ном авахгүй байгаа Доржид 「ав」 гэж буй утга

б. Би, ном авъя гэж бодож байгаа Доржид 「тэг тэг, авч болно」 гэж буй утга

в. Ямар утгатайг нь мэдэхгүй байна

г. Өөр утга ()

21. Эцэг эх надаар нохой тэжээлгэсэн

а. Эцэг эх, гэрийн ажил юу ч хийдэггүй надаар, ямар нэгэн гэрийн ажил хийлгэсэн нь дээр гэж бодоод 「нохой тэжээ」 гэж буй утга

б. Эцэг эх, нохой тэжээмээр байгаа надад 「тэг тэг, тэжээж болно」 гэж буй утга

в. Ямар утгатайг нь мэдэхгүй байна

г. Өөр утга ()

22. Эцэг эх надаар нохой тэжээлгүүлсэн

а. Эцэг эх, гэрийн ажил юу ч хийдэггүй надаар, ямар нэгэн гэрийн ажил хийлгэсэн нь дээр гэж бодоод 「нохой тэжээ」 гэж буй утга

б. Эцэг эх, нохой тэжээмээр байгаа надад 「тэг тэг, тэжээж болно」 гэж буй утга

в. Ямар утгатайг нь мэдэхгүй байна

г. Өөр утга ()

23. Аав хүүхэддээ ногоо идүүлсэн

а. Аав нь, ногоонд дургүй хүүхэддээ 「ид」 гэж буй утга

б. Аав нь, ногоонд дуртай хүүхэддээ 「тэг тэг, идэж болно」 гэж буй утга

в. Ямар утгатайг нь мэдэхгүй байна

г. Өөр утга ()

24. аав хүүхэддээ ногоо идүүлүүлсэн

а. Аав нь, ногоонд дургүй хүүхэддээ 「ид」 гэж буй утга

б. Аав нь, ногоонд дуртай хүүхэддээ 「тэг тэг, идэж болно」 гэж буй утга

в. Ямар утгатайг нь мэдэхгүй байна

г. Өөр утга ()

Судалгаанд хувь нэмрээ оруулсан танд баярлалаа

4. お父さんは兄に車を運転させた。

- a. お父さんが、車の運転が嫌いな兄に、「運転しなさい」という意味
- b. お父さんが、車の運転をしたがっている兄に、「どうぞ、運転していいよ」という意味
- c. どんな意味か分からない
- d. 他の意味 ()

5. 私は兄に荷物を運ばせた。

- a. 私が、荷物を運ばない兄に、「荷物を運びなさい」という意味
- b. 私が、荷物を運びたいと思っている兄に、「どうぞ、荷物を運んでいいよ」という意味
- c. どんな意味か分からない
- d. 他の意味 ()

6. お母さんは私に家を掃除させた。

- a. お母さんが、家の掃除をしない私に、「掃除しなさい」という意味
- b. お母さんが、掃除をしたいと思っている私に、「どうぞ、掃除していいよ」という意味
- c. どんな意味か分からない
- d. 他の意味 ()

7. お姉さんは妹に服を洗わせた。

- a. お姉さんが、洗濯をしない妹に、「服を洗いなさい」という意味
- b. お姉さんが、洗濯をしたいと思っている私に、「どうぞ、服を洗っていいよ」という意味
- c. どんな意味か分からない
- d. 他の意味 ()

8. 私はバトに馬頭琴を弾かせた。

- a. 私が、馬頭琴を弾かないバトに、「弾きなさい」という意味
- b. 私が、馬頭琴を弾きたいと思っているバトに、「どうぞ、弾いていいよ」という意味
- c. どんな意味か分からない
- d. 他の意味 ()

9. お母さんは私に料理を作らせた。

- a. お母さんが、料理をしない私に、「ご飯を作りなさい」という意味
- b. お母さんが、料理を作りたい私に、「どうぞ、作っていいよ」という意味
- c. どんな意味か分からない
- d. 他の意味 ()

10. 私はドルジに日本で本を買わせた。

- a. 私が、日本で本を買わないドルジに、「買いなさい」という意味
- b. 私が、日本で本を買いたいと思っているドルジに、「どうぞ、買っていいよ」という意味
- c. どんな意味か分からない
- d. 他の意味 ()

11. 両親は私に犬を飼わせた。

- a. 両親が、家の仕事に手伝わない私に、家の仕事をしたほうがいいと思って、「犬を飼いなさい」という意味
- b. 両親が、犬を飼いたいと思っている私に、「どうぞ、飼っていいよ」という意味
- c. どんな意味か分からない
- d. 他の意味 ()

12. お父さんは子供に野菜を食べさせた。

- a. お父さんが、野菜が嫌いな子供に、「野菜を食べなさい」という意味

